

ダニエル書 9：18～19

ヨハネの手紙一 5：13～15

「喜ばれる祈り」

(ハイデルベルク信仰問答 祈りについて 問 117)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】 マルコによる福音書 1：15

【讃美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】 詩編 130 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55：7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 275 「闇に行くものは」

【祈祷】 天の父なる神さま

あなたは、今朝もわたしたちに、新しい命、新しい朝、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださいました。2023年、最後の一日を、兄弟姉妹と共に、あなたを礼拝する一日として備えてくださり、心から感謝いたします。

これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの恵みをますます深く知ることができるよう、導いてください。この礼拝の中心に、生きておられる復活の主、イエスさまが共にいて下さり、親しい交わりの中に、わたしたちの信仰を励まし、強めてください。そして、わたしたちが聖霊によって、今日また新たにされ、新たな一年も、神さまを礼拝しつつ、賛美しつつ、御心に従って歩んでいくことができますように。

主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】 ダニエル書 9：18～19、ヨハネの手紙一 5：13～15

【説教】 「喜ばれる祈り」

<祈りについて>

主日礼拝では、『ハイデルベルク信仰問答』によって、聖書の御言葉を聞いています。2週間前から、信仰問答は「祈りについて」の項目に入りました。

今回は問 116 でしたが、まずはそこで、「キリスト者には祈りが必要である」ということが語られていました。

わたしたちには、祈りが必要です。なぜなら「祈ること」は、イエスさまによって救いをいただいたわたしたちが、神さまに感謝して生きる生活の、中心であり、土台だからです。

わたしたちは、罪から救っていただいたから、神さまに祈ることができます。祈ることそのものが、神さまに与えられた恵みなのです。

祈りは、神さまの招きからはじまります。神さまが、一人一人の名前を呼び掛けてくださり、イエスさまの救いを与えて下さったから。わたしたちは、罪から立ち返って、神さまの方を向いて、その御声にお応えして、祈ることができるのです。

そして、こちらからも、心の内を何もかも神さまに打ち明けて、慰めを、導きを、祝福を求めて、祈ることができるのです。

ですから祈りは、神さまとの対話である、とも言われます。それは、生きておられる神さまと、交わりをもって、共に生きる、ということなのです。ですから、キリスト者の信仰生活にとって、祈りは必要不可欠であり、祈りのない信仰生活は、あり得ないのです。

### <神に喜ばれる祈り>

さて、その上で、今日の信仰問答、問 117 はこのように問いかけます。

「問 117 神に喜ばれ、この方に聞いていただけるような祈りには、何が求められますか。」

わたしたちは、祈りが、神さまに喜ばれるものでありたいと願います。

祈りは、独り言ではありません。耳を傾けて、聞いて下さっている神さまがおられます。

祈りは、神さまと対話することなのですから、一方的に、自分の言いたいことだけを言うような祈りは、神さまに喜ばれる祈りとは言えないでしょう。

でも、だからといって、美しい言葉を並び立てることや、誰もが感心するような、立派な内容の祈りをしなさい、ということではないのです。

わたしたちは時々、自分の祈りが、こんな祈りでいいのかな。こんなことを祈ってもいいのかな、と、不安に思うことがあるかも知れません。

もちろん、神さまに祈りながら、神さま以外のものに心を向けているような祈りや、自分勝手な祈り。自分の希望通りに神さまを動かそうとする祈り。神さまを愛すること、隣人を愛することから離れているような祈りは、神さまに喜ばれるはずがありません。

でも、祈りにおいて一番大切なのは、祈りの言葉使いがどうこう、内容がどうこうというよりも。わたしたちが祈る時の、神さまへの態度。祈りに向かう時の、心や、姿勢が、大切なのです。

『ハイデルベルク信仰問答』の問 117 は、そのわたしたちの祈りの姿勢、態度について、3つのことを教えようとしています。そして、そのように祈ることこそ、神さまが喜んでくださる祈りだ、と語るのです。

### <①唯一のまことの神に対してのみ>

まず、問 117 の答えの「第一に」とあるところを見てみましょう。こうあります。

「第一に、ご自身を御言葉においてわたしたちに啓示された唯一のまことの神に対してのみ、この方がわたしたちに求めるようにとお命じになったすべての事柄を、わたしたちが心から請い求める、ということ。」

まず、大切なのは、わたしたちが祈る相手は、御言葉において啓示された方。つまり、神の言葉であるイエスさま、そして、聖書において啓示された、唯一のまことの神に対してのみ、祈るのだ、ということです。

本来、天地をお造りになった、全知全能の神さまのことを、造られたものであるわたしたちは、知ることができません。あまりに偉大過ぎて、あまりに途方もなくて、わたしたちが神さまのことを把握すること、理解することは、まったく不可能なのです。

だからこそ、神さまの方が、わたしたちに分かるように、ご自分を現わされました。そのことを「啓示」と言います。隠されたものを、明らかにする、という意味です。

神さまは、ご自身のこと、またご自分の御心を、御子であるイエスさまをこの世に遣わされることによって、明らかにされました。また、聖霊の導きによって書かれた、神の言葉である聖書によって、わたしたちに明らかにされたのです。

御言葉が教えてくださる神さまは、父、子、聖霊なる、三位一体の神であり、唯一の神です。わたしたちをお造りになった神さま、愛してくださる神さま、罪から救ってくださる神さまです。

わたしたちは、この方に向かって祈る。この方にのみ、祈るのです。

キリスト者であるわたしたちは、たくさんの神々の中の一つに祈るのではありません。わたしたちが知らされている神さまは、「唯一の神」なのです。

よく助けを求めて祈るときに、世間では「神さま、仏さま」と、何でもいいから、助けてくれそうな存在にすがろうとする祈りがあります。

でも、わたしたちは、誰でもいいから助けて、と祈るのではありません。

わたしたちを罪から救うために、神の御子イエスさまが、十字架に架かって、死んでくださる。そこまでして、わたしたちを救って下さる方に。愛して下さる方に。憐れんで下さる方に。わたしたちは、祈るのです。

そして、信仰問答は、「この方がわたしたちに求めるようにとお命じになったすべての事柄を、わたしたちが心から請い求める」のが、神さまに喜ばれる祈りだ、と語ります。

この、神さまが「わたしたちに求めるようにお命じになったすべての事柄」というのは、次の問 118 の問答で教えられます。そして、それは、イエスさまが、口移しで教えてくださった「主の祈り」に、すべてが示されている、と語るのです。

これはまた、問 118 以降で、示されていていきたいと思います。

大切なのは、まず、このように、わたしたちには、祈るべき相手がはっきりしているということ。わたしたちが、どなたに祈っているかを、はっきりと知っているということ。

そして、それは、御言葉において示された、唯一のまことの神に対してのみ、祈るのだ、ということです。

<②へりくだって>

そして、そのことが、問 117 の答えの「第二に」というところに繋がっていきます。

こうありました。「第二に、わたしたちが自分の乏しさと悲惨さを深く悟り、この方の威厳の前にへりくだる、ということ。」

わたしたちは、御言葉を通して、唯一のまことの神さまと出会い、この方を知り、この方に救われ、この方の御前に立つ者とされました。そして、この方に祈ります。

わたしたちが、そうして、まことの神さまの御前に立つということ。それは同時に、わたしたちが、まことの自分の姿を知る、ということでもあります。

神さまの聖さの前に立つとき、わたしたちは、自分の汚れを明らかにされます。神さまの偉大さの前に立つとき、わたしたちは、造られた者である、自分の小ささを覚えます。神さまの愛の前に立つとき、わたしたちは、自分の愛の貧しさを知らされます。神さまの罪の赦しの前に立つとき、わたしたちは、御子イエスさまの十字架の死によってしか救われることが出来なかった、自分の、本当に悲惨な罪の姿を知るのです。

そうであるなら、わたしたちは、この方の御前にへりくだらずにいられるでしょうか。畏れを覚えずにいられるでしょうか。悔い改めの心を持たずにいられるでしょうか。

わたしたちは、神さまと対話できるからといって、神さまと対等なのでは、決してありません。とんでもないことです。

わたしたちは、本当は、神さまの御前になど、出ることが出来ない者でした。罪のゆえに、神さまの御顔を見れば、滅んでしまう者でした。怒りを恐れて、御顔を避けなければならないような者でした。

でも、神さまの方が、わたしたちのところへ、降ってきて下さったのです。神さまの方が、身をかがめてくださった。御子イエスさまを遣わし、わたしたちのところに来られ、どのような罪深い者とも、そのような悲惨な者とも、共にいてくださる。そのようなわたしたちを、十字架で死ぬまで、愛し抜いてくださると、はっきり示してくださったのです。

そして、わたしたちを罪から救い出し、親しく神さまに呼びかけることを。親しく交わることを。神さまの御手の中に、安心して憩うことを、ゆるしてくださったのです。

だからわたしたちは、神さまの御前に立って、祈ることができるのです。このようなわたしたちが、傲慢な態度で、あるいはぞんざいな態度で、御前に出るわけにはいきません。

答えの第二のところには、「この方の威厳の前にへりくだる、ということ」とありました。ここは、『ハイデルベルク信仰問答』が書かれたドイツ語を直訳すれば、「この方の顔の前にへりくだる」という言葉です。

天地創造の神の顔の前に、全知全能の神の面前に、救ってくださった神さまの目の前に、わたしたちは、立っているのです。わたしたちは、神さまの目の前で、顔の前で、日々の生活を営み、生きているのです。

普段は、ついつい日常に埋もれて、わたしたちは、そのことを忘れていてのではないのでしょうか。しかし、わたしたちが忘れていた時も、神さまは常にわたしの面前におられます。

わたしたちは、祈る時にやっと、目の前におられる神さまに、改めて心に向けて集中します。そして、今この時も、罪を赦され、御前で祈ることがゆるされている恵みを覚えて。心からの感謝と、悔い改めの心をもって。へりくだって、祈るのです。

### <③確信をもつ>

ですから、この第二の答えを受けて、第三の答えはこう続きます。

「第三に、わたしたちがそれに値しないにもかかわらず、ただ主キリストのゆえに、この方がわたしたちの祈りを確かに聞き入れてくださるといふ、揺るがない確信を持つことです。それは、神が御言葉においてわたしたちに約束なさったとおりです。」

ここには、「わたしたちがそれに値しないにもかかわらず」とあります。そうです。先ほど言いましたように、わたしたちは、乏しく、悲惨な者であり、本当は、神さまの御前に立てる者ではなかった。対話など出来るものではなかった。祈ることができなかったのです。

しかし、「ただ主キリストのゆえに」、神さまは、わたしたちの祈りを確かに聞き入れてくださいます。イエスさまこそが、わたしたちに、祈りへの道を拓いてくださったのです。

神さまから離れ、悲惨に陥り、滅びに向かっていたわたしたちを救うために、神の御子イエスさまが、わたしたちのところへ、低く降って来てくださいました。そして、わたしたちの罪の負債を、すべて肩代わりし、ご自分の命を代価として支払い、わたしたちをご自分のものとしてくださったのです。

「もう、あなたの罪は贖われた。もう、あなたは神のものだ。もう、あなたは神の子だ。」

イエスさまが、わたしたちに、そう宣言して下さいました。

こうして、わたしたちが、イエスさまのものとしてされたから。神の御子イエスさまと、一つにされたから。わたしたちもまた神の子とされ、罪を赦された者として、神さまの面前に立ち、神さまに向かって、親しく祈ることができるのです。

そして、わたしたちが、神の御子イエスさまと一つにされて祈るからこそ、父なる神さまが、わたしたちの祈りを、確かに聞いてくださると、確信することが出来るのです。

わたしたちは、自分のつたない、未熟な祈りを、「イエスさまの御名によって」祈ることがゆるされています。

それは、わたしの祈りを、イエスさまが共に祈ってくださるといふこと。わたしたちの祈りを、イエスさまの祈りとしてくださるといふこと。わたしたちは、イエスさまにあって、イエスさまの祈りに包まれて、祈ることが出来る、ということなのです。

ですから、祈ったことが、聞かれるか、聞かれないか。届くか、届かないか。そのことを疑う必要はありません。わたしたちが、御子イエスさまにあってささげた祈りを、神さまは必ず聞き入れて下さいます。

そして神さまは、御心に従って、わたしたち一人一人に、必要な最も良いものを、必ず与えてくださいます。必ず恵みを見出させて下さいます。必ず道を示して下さいます。

わたしたちは、御子イエスさまが共にいてくださるからこそ。イエスさまにあって、祈るからこそ。父なる神さまが祈りを聞き入れて下さるといふ、揺るがない確信をもって、祈ることが出来るのです。

<キリストのゆえに>

第三の答えでは、「それは、神が御言葉においてわたしたちに約束なさったとおりです」と語っていました。神が御言葉において約束なさったとおり。

まさに、今日読まれた新約聖書のヨハネの手紙一 5:13~15 も、神さまが、わたしたちの祈りを聞き入れて下さることを、確信してよい、とされているところです。

まず、13節にはこうありました。「神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです。」

永遠の命とは、わたしたちが、罪から神さまの許に立ち返って、永遠なる神さまとの交わりの中で生きるようになる、その新しい命のことです。

わたしたちには、すでに、神さまとの交わりが与えられています。それは、神の子の名を信じたからです。

ここには、「神の子の名を信じたから」とありますが、厳密に言葉を見ると、「神の子の名にあって、信じたから／神の子のお名前の中にある、信じたから」となっています。

お名前とは、その人自身の本質を現わしています。だから、わたしたちは、神の御子イエスさまご自身の中にある、救いを信じ、受け取った。イエスさまの中に招き入れられて、イエスさまと一つに結ばれて、神さまとの交わりに与る者とされたのです。

わたしたちは、そうしてイエスさまのお名前を帯びる者となった。キリスト者と呼ばれる者になった。イエスさまの名にあって、イエスさまのものとされて、永遠なる神さまとの、親しい関係に生きることができるようになったのです。

だから、14節「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です」と、言うことが出来るのです。

信仰問答の間 117 の第三の答えは、この聖書の御言葉をなぞるかのようです。

「ただ主キリストのゆえに、この方がわたしたちの祈りを確かに聞き入れてくださるといふ、揺るがない確信を持つことです」と。これは、聖書の御言葉による約束です。

…これから、わたしたちが、やはり自分の罪深さのために、神さまに恐れを抱いても。自分勝手な思いに捕らわれても。苦しみや悲しみの中で、祈ることが困難になっても。

わたしたちのために十字架に架かり、ご自分の命をも惜しまず捨ててくださったお方が、いつもわたしと共にいて、わたしと共に祈って下さいます。わたしたちは、イエスさまのお名前によって、イエスさまの中にある、父なる神さまに祈るのです。

そのような祈りを、この御子をわたしたちのために遣わしてくださった、父なる神さまが、聞き届けてくださらないはずがありません。恵みを注いで下さらないはずがありません。

信仰問答の答えに出てきた「揺るがない確信」という言葉は、直訳では「堅固な土台」という言葉です。堅固な土台。固い土台。決して揺るがない、基礎、根拠です。

その、堅固な土台こそ、わたしたちがイエスさまのものである、ということなのです。

祈りが聞かれることは、わたしたちに根拠があるわけではありません。わたしたちと共にいてくださるイエスさまにこそ、祈りが聞かれる根拠があるのです。

どれだけわたしたち自身が、困難や、悩み苦しみに揺さぶられても、この土台は、決して揺るぎません。イエスさまが、わたしたちを捕らえて離されませぬし、イエスさまが、わたしたちを固く支えていて下さいます。

この、堅い土台の上で、わたしたちは神さまを信頼して、お委ねして、安心して、すべてのことを祈っていくことができる。すべての助けを、すべての恵みを、イエスさまをわたしのために与えてくださる、唯一のまことの神さまに、祈り求めていくことができる。これこそ、わたしたちの幸いであり、喜びです。

そして、神さまご自身もまた、そのようにわたしたちが、イエスさまにあって、神さまに心から信頼をおいて祈ることを、喜びとしてくださるのです。

#### 【お祈り】

天の父なる神さま

あなたに祈ることができる恵みを、心から感謝いたします。

本当は、わたしたちは罪によって、御前に出ることができず、お名前を呼ぶことさえ、恐れなければならない者です。

しかし、御子イエスさまと共にいてくださることによって、わたしたちもまた、あなたの子どもとして受け入れられ、あなたの御顔の前に出て、「父よ」と親しく呼びかけ、何でも委ね、何でもより頼み、何でもあなたから求めることを赦して下さいました。

どうか、わたしたちが、自分の罪深さを知り、御前に心からへりくだる者とされますように。また、イエスさまにあって、心からの信頼をもって、あなたに祈ることが出来ますように。

祈りを通して、わたしたちを、悔い改めへとますます導き、神さまの御心を、愛を、ますます教え、神さまと共に歩いていく人生を、ますます祝福してください。

このお祈りを、御子イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 4 4 7 「神のみこころは」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

## 【祈祷】

天の父なる神さま

先の主の日には、御子イエスさまを賜った、クリスマスの恵みを深く覚え、多くの兄弟姉妹と共に、あなたに礼拝と賛美をささげることが出来ましたことを感謝いたします。

また、この年の瀬、一年の歩みを、あなたが御言葉によって支え、祝し、導いて下さったことを覚えて、心からの感謝をささげます。

わたしたちは、困難の中にあっても、労苦の中にあっても、あなたの御言葉によって、恵みによって、共にいてくださる神さまの御力に支えられて、歩いていくことが出来ます。

どうか新しい一年も、神さまの御言葉を中心にして、祈りを信仰生活の土台として、与えられた日々を、大切に歩いていくことが出来ますように。また、そのすべての中心である礼拝へと、わたしたちを主の日毎に、招いて下さい。

しかしながら、さまざまな事情で、この礼拝へ集うことが出来ない、愛する兄弟姉妹を覚えます。どうか、それぞれの場所にあっても、聖霊なる神さまが御言葉を届けて下さり、共にいて下さるイエスさまにあって、共に礼拝の祝福に与らせて下さい。そしていつも、主にある平安と、喜びの内に、安心して歩むことが出来ますように、お導き下さい。

また、この礼拝に、新しく招かれている方たちを覚えます。どうか、御言葉を通して、あなたの愛を、知ることが出来ますように。救い主イエスさまと、出会うことが出来ますように。聖霊なる神さまが、まことの信仰へと導いて下さいますように。そして、あなたを唯一のまことの神とし、あなたに向かって確信をもって祈る、その幸いへと招いて下さい。

神さま、この一年は、あなたの愛しておられるこの世界において、悲惨な争いが起こり、共に生きることができない、愛し合うことができない、わたしたちの罪が、悲惨が、露わにされました。どうか、お許しください。そして、傷つき、悲しみ、嘆いている人々を、どうか助け、慰め、お守りください。一日も早く、この世界が、人々が、まことの平和へと向かっていくことが出来ますように、導きを与えて下さい。

どうか、神さまの御心が、この地になりますように。

そして、そのことは、わたしたちが一人一人が、あなたの御心に従って、祈ること、隣人を愛することから、始まることを覚えます。まず、わたしたちから、平和を実現する者とならせてください。

またそのために、この地上に立てられた、御子イエスさまの体なるわたしたちの教会が、力強く福音を宣べ伝え、神さまの御心を告げ知らせ、執り成しの祈りを続けていくことが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

## 【讚美歌】 26 「グロリア、グロリア、グロリア」

### 【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、  
あなたがた一同と共にあるように。アーメン